

「民主党の海江田代表」、イタイイタイ病資料館を見学

11月16日、民主党の海江田代表が、イタイイタイ病資料館に来館されました。館長がエントランスでお出迎えをした後、早速、床面に写し出された衛星写真にて概要説明を行いました。被害地域などを把握された海江田代表は、引き続き、館長の誘導で展示室へ移動されました。被害の実態、患者の症状、裁判闘争、環境被害対策までの歴史を時折、質問もされながら、熱心に見学をされていました。館内を一通りご覧になられた後は、個人の感想などを自由に記帳していただく「メッセージコーナー」にも立ち寄られ、今回の資料館を見学された感想を綴っていただきました。

緊張感の漂う中、滞在された時間は30分ほどでしたが、最後に解説を務めた館長と硬い握手を交わされていました。小春日和の穏やかな日となった当日、その時に見せられた海江田代表の表情も暖かく柔和な眼差しがとても印象的でした。



進化し続ける資料館をめざして

11月19日、資料館運営がより円滑で効果的に進められるよう、学識経験者や関係団体の代表や学校教育関係者などで構成する資料館運営会議を開催しました。資料館顧問の谷修一氏（国際医療福祉大学名誉学長）が座長となり、会議が進められ、議題に沿って意見交換が行われました。

開館1周年の節目として開催した特別企画展の様子や昨年度の会議で提案いただいた教育委員会や学校との連携、メールマガジンの積極的な活用などの結果、各種事業への参加者が増加状況にあることなどを説明しました。また、入館者数の状況では、総数では、前年よりも落ち込みが予想される中、団体の来館者が増加の傾向、特に小学校からの来館が、前年度よりも確実に増えていることなどを報告しました。

これに対し委員からは、開館2年目を迎え、前回からの課題への対応や来館者の誘客に向けた努力がうかがえるとの評価がされました。このほか事業の実施や職員の展示解説では、現状に満足することなく、常に改良を加えながら、利用者のニーズに沿った精度の高いものへの工夫についても意見が出されました。

こうした意見を踏まえ、今後とも進化し続ける資料館になるよう努力していきます。



富山大学からのお知らせ

～富山大学発 放射線に関する情報発信～

東日本大震災と東京電力福島第一原子力発電所の事故から3年目を迎えるにあたり、このような重大事故に対して、大学が何をしてきたか、また、何ができるのか、未来に向かって情報を発信するシンポジウムが開催されます。

■「震災から3年を迎えて 環境と放射線 ―福島は今―」【参加無料】

日 時 平成25年12月21日（土） 午後1時～5時20分

場 所 富山大学五福キャンパス 理学部2階多目的ホール

内 容 基調講演「大学発の被ばく医療への対応 ―震災前と後―」

シンポジウム「環境と放射線 ―福島は今―」

- なお、翌12月22日（日）に、参加者による「富山県立イタイイタイ病資料館見学会」も実施されます。

【お問い合わせ】

富山大学研究振興部研究振興グループ

〒930-8555 富山県富山市五福3190

TEL：076-445-6694 FAX：076-445-6033

E-mail：kenshin@adm.u-toyama.ac.jp